

【学校だより】

ほさかっ子

穂坂っ子

【学校教育目標】

心豊かで
かしこく
たくましい子ども

平成29年9月22日 NO.6 穂坂小学校長

運動会をステップに…！（自己肯定感の向上を目指して）

今月14日より、運動会の練習が始まりました。必死に手を振り全速力で走るリレーの練習。チームワークの大切さを確かめながら取り組む学年競技の練習。難しい振り付けも覚えようと真剣な表情で踊る表現運動の練習。「もっとうまくなろう！」「もっとできるようになろう！」と努力する子どもたちの姿は、見ていてとても気持ちがよいものです。そこには「がんばれば、もっと上手になる！」「自分は必ずできるはずだ！」と、自らの存在をかけがえのないものとして、肯定的に受け止める感情（自己肯定感）があるのではないのでしょうか。この自己肯定感が高くなればなるほど、少々のことではめげない意志力や何事も意欲的にやり遂げようとする行動力が強くなると言われています。



自己肯定感を高めるためには、子ども自身の努力も必要ですが、周りの働きかけがとても大切です。その働きかけの例としてよく挙げられるのは、画家の山下清さんが通った学校（八幡学園）の標語『踏むな、育てよ、水そそげ』です。これは、「その子らしさ、その子の伸びしろを踏まず、育てよ。そして、その子その子の成長に必要な水を注げ！」という教えです。本校でも、子どもたちがやる気をもって、最後まで頑張ることができるように、子どもたちの成功体験を見逃さず、また一人一人の努力のあゆみを認めながら、心をこめて評価しています。

運動会まで、あと一週間。運動会当日は、子どもたちの自信に満ちた顔で演技する姿が、ご覧いただけたと思います。

シリーズ⑥

褒め言葉の効用！

さりげない一言が、あたたかい！

「お母さんは（お父さんは）・・・
○○だと思うよ」

子どもも一人の人間です。年齢とともに自己主張するのは発達段階を考えると当然のことです。すぐに「生意気だ」と押さえつけるのではなく、「なるほどね。あなたの○○の部分はいいと思うけど、□□の部分は違うと思うな…」と、子どもの声に耳を傾けることが大切です。子どもはすぐに納得しないこともあるかも知れません。

そんな時も、あせらずに…………。

子どもに『自分の言い分を聞いてくれた』という満足感を持たせること、物事を解決するには、話し合いが必要であることを学ばせることが大事なのです。

文部科学省指定

…外国語教育強化地域拠点事業…

公開研究会を開催しました！



今月13日（水）、本校で「外国語科（6年生）」及び「外国語活動（4年生）」の授業を公開しました。当日は蕪崎市内は勿論のこと、遠くは富士吉田や北都留からの先生方を含め80人以上が集まり、授業公開をした教室は、あふれんばかりの賑わいでした。授業終了後は、これまで本校が積み上げてきた英語教育の取組について研究会を実施しました。「授業について」「子どもたちの学習の様子について」「指導法について」等、参観者の皆様からご意見を伺いました。「子どもたちが真剣に英語を学ぶ学習態度がすばらしかった。」「楽しみながら英語を使ってコミュニケーションを図っている感じが感じられた。」「教師が英語を使うモデルになっていた。」等…、ありがたい評価をいただきました。この評価に甘んずることなく、今後も子どもたちのために研究を積み重ねていきたいと思ひます。